防災設備の整
188万円）
園古民家の保
0万円）▽生
ルフ場の整備
40万円、発
大規模公園緑
・効率的な管
進（483万
緑地ビジョン
けた調査検討
円）

▽戸塚駅西口第1地区
地区）－1005▽エキ
ン行政推進－997▽美
検討）－942

横浜市

第1四半期に発注

上郷矢沢コミュニティーハウス

横浜市市民局は2012年度、栄区の旧矢沢小学校跡地に整備を計画している上郷矢沢コミュニティーハウスの工事を第1四半期に発注する。13年1月の完成、3月の開館を目指す。事業費として12年度当初予算案に9753万円を計上している。

コミュニティハウスは、グループ活動に利用できる研修室や市民図書室などを備えた施設で、通常は小中学校の施設を活用して設置している。

学校統廃合で廃校となった旧矢沢小学校（栄区桂台南2ノ34ノ1）では現在、体育館をコミュニティーハウスとして活用しているが、暫定施設のため不便を生じていることから、新たに専用の建物を建設する。

新設する建物の規模は木造平屋約300平方㍍で、集会室1室や和室1室、ホール、子どもの遊び場などを配置する。現在、利用している体育館（鉄骨造2階建て延べ560平方㍍）は、新施設の解体後に除却する。

実施設計は田辺設計（横浜市中区）が担当した。

市民病院整備事業

16年度中に完了を

10日、市民病
の完了予定を
度末から16年
したことを明
。新棟と北棟
免震構造の国
認可の取得に
構造の再計算
。NTTファ
ズ（東京都港
している基本
の納期を3月
度中まで延長
的な設計完了
定作業の進捗
度に予定して
施工者選定に
合わせて決める。

両棟の接続については、新棟と改修する北棟の両棟を一体とした大臣認定の取得を決めたが、北棟から採取したコンクリートの一部が設計基準強度に不足するため、同棟の構造計算書を見直す。再計算により補強などの対応策を検討する。

今後の整備スケジュールは、12年度に旧看護師宿舎の仮設事務室への改修と仮設バスロータリー工事、既存棟（救急棟・管理棟・保育所）の解体工事を発注し、新棟の施工者を決定。

13年度に新棟本体工事に着手し、15年度の完成後、北棟を改修。最終年度の16年度に南棟と仮設救急棟、旧看護士宿舎を解体し、外構工事を完了させる。総事業費は約107億円を見込む。

新棟の規模は、地下1階地上6階建て延べ約1万8430平方㍍。中央部には吹き抜けを設け、上部トップライトからの自然採光を有効活用する考え。主な施設内容は、地階が外来や生理検査部門、1階が外来部門と中央待合、2階が手術部門、3階が集中治療室や緊急病床、4階が透析室やリハビリテーション部門、緩和ケア病床、5階が新生児集中治療室や産科病床、6階が電気・機械室。このほか、屋上にヘリコプター離着場を設ける。

北棟の規模は鉄骨鉄筋コンクリート造地下1階地上6階建て延べ約1万6160平方㍍。建設地は南原1の19の1の敷地約1万8330平方㍍。北棟の西側に南北に長い新棟を建設する。

構想

クを活用した土地利用や地域特性を生かした産業を立地させる方針を示し

座間市

6月ごろに発注

ひばりが丘保など耐震補強

座間市は、相模が丘西保育園とひばりが丘保育園の耐震補強工事費を2012年度当初予算案に計上したもようだ。両工事とも6月ごろに発注する予定。

相模が丘西（相模が丘2ノ43ノ41）の既存規模は鉄筋コンクリート造2階建て延べ805平方㍍。耐震診断調査はKen House一級建築士事務所（藤沢市）、耐震補強設計はアトラス設計（横浜市青葉区）が担当した。

ひばりが丘（ひばりが

木材を活用した産業施設を誘致し、植物工場などの一次産業を効率化、高

山ICの開設後の周辺地域の開発状況を踏まえ、有効な土地利用策を検討

キャタイースト

産廃など狭い現場でも活躍

「Cat312E」発売

キャタピラーイースト
ジャパン（相模原市中央区下九沢777）は、オフロード法2011年基準をクリアし、土木や解体、産廃などの狭い現場で活用でき、高い生産性と小型機の汎用性を備えた12トンクラスの油圧ショベル「Cat312E」の発売を開始した。世界各地の現場で100万通りの燃焼パターンを記憶させた電子制御システムにより、低エミッションと低燃費（スタンダードモードで従来機比約7％低減）を両立。「NOxリダクションシステム」を採用してNOxを削減し、オートアイドルストップ機能も搭載している。

Cat® 312E 油圧ショベル

さらに、キャブガラス面積を従来機比9％拡大し、キャブ内騒音は同機比約3・5㌈を低減。各種設定・稼動状況や後方視界などを容易に確認できる7インチフルグラフィックカラーモニターも装備して、オペレーターの環境に配慮した。

問い合わせ先は電話042(775)2611。

BCP支援で端末用ソフト

河本総合防災

河本総合防災（相模原市中央区、河本俊一社長）は、企業や行政機関が策定した事業継続計画（BCP）を支援するため、タブレット端末用ソフトを独自に開発した。発災に伴う避難時に的確な行動を導けるよう事前トレーニングができるソフトで、官公庁向けなどに年間100件程度の導入を目指している。

企業などが策定したBCPを適切に運用できるかどうかを確認し、被災状況を想定した擬似訓練に活用できる。個々の従業員が持つ端末へ情報を送受信することで、非常時の連絡方法などを確認できる。

河本伊久雄常務は、「トレーニングソフトの活用で、非常時の連絡方法や事業運営上の課題を整理し、BCP対策の見直しや改良に役立ててほしい」と話す。

ナガワ

大決算セール 3月2日から

スーパーハウス製造・販売、プレハブハウス設計・施工のナガワ（本社・さいたま市大宮区、高橋修社長）の神奈川営業所は3月2日から4日までの3日間、厚木市の同営業所展示場内（下依知245）で「大決算セール」を開く。プレハブハウスの中でも、短納期や低コストを実現したシステム建築やNP－G型の断熱性能やフレキシブル性といった特徴をPRする。3日と4日には2日間限りの限定抽選会も行う。

システム建築は、目的計できるハイグレード仕様。クリニック、事務所、倉庫、集合住宅、店舗などフレキシブルに利用でき、いずれも短納期、低コストを実現している。

当日は「年に一度の大商談会」と銘打ち展示も増やす。限定の抽選会では、いずれも格安価格を設定している。3日午前9時はST－H1型（中